

国語科学習指導案

東大阪市立弥刀小学校

指導者 岡元 直樹

1. 日 時 令和6年11月14日(木) 第5時限 14:15～15:00
2. 場 所 第4学年1組教室
3. 学年・組 第4学年1組(21名)
4. 単元名 人物の気持ちや変化を伝え合おう「ごんぎつね」(東京書籍・四年下)
5. 単元の目標

(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。

[知識及び技能] (1) オ

(2) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) エ

(3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

(4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

6. 本単元で取り組む言語活動

叙述に基づいて、『ごんぎつね』のその後を書き表す

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1) オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。C (1) エ ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。C (1) オ	進んで、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、学習の見通しをもって、場面の移り変わりや出来事と結び付けて具体的に想像し、考えたことを伝え合おうとしている。

8. 指導にあたって

(1) 児童観

省略

省略

(2) 教材観

『ごんぎつね』は、中心人物であるごんが兵十との関わりを通して、人への関わり方や気持ちが変化していく様子が描かれている作品である。思春期にさしかかり心が揺れ動く時期でもある児童の中には、ごんと兵十の思いが交わることなく物語が進んでいくもどかしさに、共感できる部分もあり、イメージしやすい作品となっている。

また、「わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。」という第三者の視点から始まる物語で、昔話の世界に引き込まれるような感覚を児童は感じることができる。そして、昔から伝えられているであろう『ごんぎつね』の世界へ入り込み、読み進めていくことができる。

一場面では、ひとりぼっちで山の中の森に穴をほって住む小ぎつねのごんは夜でも昼でも、村へ出ていたずらばかりしている。畑へ入っていもを掘り散らかしたり、菜種がらの干してあるのへ火をつけたり、百姓家の裏手につるしてあるとんがらしをむしり取っていたりと、いろんないたずらをしている。いたずらするその姿や本文の描写から、児童は「ひとりぼっちでさびしいのでは」「かまってほしいのでは」というごんの心の中を想像することができると思われる。そして、ある秋の雨上がりに川で魚をとる兵十に出会うごん。ちょいと、いたずらがしたくなったごんが、兵十がせっかく捕まえた魚を川の中を目がけて、ぼんぼん投げ込んでしまう。兵十にいたずらしているところを見られたごんは最後のうなぎを首にまきつけたまま逃げてしまう。この思いつきで行ったいたずらが、後の場面への布石となっている。ここから兵十とごんとの関係が始まり、二人の物理的な距離や心の距離が動き始める。この場面の二人の関係を丁寧に抑えることで、児童はこの後のごんの気持ちの変化をとらえやすくなると考えられる。

また、「あんないたずらをしなけりゃよかった。」「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」「うなぎのつぐない」「山でくりをどっさり拾って、それをかかえて、兵十のうちにいきました。」「くりを置いて帰りました。」「ごんは、二人の後をつけていきました。」「兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。」「そのあくる日も、ゴンは、くりを持って、兵十のうちへ出かけました。」「ごんは、うちのうら口から、こっそり中へ入りました。」など、いたずらばかりしていたごんのが二場面以降、兵十との距離が近づいていることがわかる。兵十もまた「ぬすとぎつね」「ごんぎつね」「ごん」というように、ごんの呼び方が変化している。このように、ごんや兵十の様子や行動を追っていくことで、前の場面との物理的、心理的な距離の違いや変化に気づき、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。」という単元の目標に近づくことができる。

また、この物語は様々な場面で生き物や植物の様子についての情景の描写、「赤い井戸」「ひがん花が赤いきれのように」「白い着物」「白いかみしも」「赤いさつまいもみたいな」「青いけむり」といった色彩での表現も多く使われている。色が持つ効果を考えたり、色の対比をしたりすることが、物語の情景や人物の心情を想像する一助にもなる。

このように、『ごんぎつね』は多くの仕掛けがある。その表現の仕掛けを読むことを通して、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができると考えられる。

また、「これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。」という冒頭の一文がこ

の物語の世界に引き込むだけでなく、最後の場面以降にもつながってくると考えられる。なぜこの「ごんぎつね」がこの村で伝えられているのか、そこにはどのような思いがこめられているのか、そして伝え始めたのは誰なのか。この物語の続きを考えることで、文章を読み理解したことに基づいて、自分の考えを再度確認することができる。そのため「叙述に基づいて、『ごんぎつね』のその後を書き表す」という言語活動にも適した教材であると考えられる。

(3) 指導観

本単元では単元目標(2)の「登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。」を重点目標として設定している。また本教材では「叙述に基づいて、ごんぎつねのその後を書き表す」ことを本単元の言語活動としている。そのために登場人物の会話や情景などの叙述に即して、行動の理由を考えていく取り組みを行っていく。

第1時から第3時では、これまで学習してきた物語を振り返り、登場人物の気持ちの変化についてどのようなことで変化するのかなど、学習してきたことを確認する。文章に使われる語句や情景を抑えながら読み進めることで、「兵十」という人間と「ごん」という動物の気持ちが交錯していく物語に興味関心を持たせていきたい。また、初発の感想を交流したり、場面に題名をつけたりすることで学習の内容をとらえ、学習を進めるための材料としていく。

第4時から第9時では登場人物の行動や会話、様子、情景などを手がかりに、登場人物について自分の考えをまとめていく。ひとりぼっちのごんがどのような行動をし、その時にはどのような心情であったのかを、情景や心内語などを手掛かりに考えさせていきたい。また、場面ごとに考えを整理していくことで、前の場面との比較が生まれ、ごんの兵十に対する心情の変化をとらえることができると考える。その際、ごんだけではなく兵十の心情にも着目させたい。ごんと兵十の心情を追っていくことで、第六場面の「ごん、おまえだったのか。いつも、くりをくれたのは。」という兵十やそれにうなずいて答えるごんの「後悔」や「驚き」、「うれしさ」、「幸せ」などといった様々な感情を児童が想像することができるようにしていきたい。

また各場面の学習の中で、「ロイロノート・スクール」を使いごんと兵十の「距離」を考える場面を設定する。ロイロノートを活用し、二人の距離を視覚化していき、場面ごとの比較もしていけるようにしていく。兵十から見たごん。ごんから見た兵十。物理的な距離もあれば心理的な距離もあるが、児童が文章の叙述からこのふたりの距離を自分なりに理由を考え、伝え合う中でより登場人物の思いの変化に気づくことができると考えている。

第10時では、前時までで学習してきたことをもとに、登場人物の思いが大きく変化した場面がどこかについて考えていく。これまでロイロノートで視覚化されたものを振り返り、場面の移り変わり結びつけて、自分自身の考えが持てるような単元の振り返りとなる学習にしたい。

第11時、12時ではこれまでの学習をもとに、この物語のその後を考える学習に取り組む。これまで学習してきたごんや兵十の変化をふまえ、兵十がごんぎつねのことを誰かに話をしたのか、話したとしたら誰にどのような話をしたのかを文章に書き表す活動をする。書き表す時に物語の叙述に即して、ロイロノートに記録してきたごんと兵十の「距離」についても参考にして考えることで、『ごんぎつね』という物語の世界にさらに深く入り込めるのではないかと考えている。

9. 単元の指導と評価の計画(全12時間) ◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

時	主な学習内容	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	●学習の見通しを立てる。 ・「つきたい力」を確認する。 ・教材文の範読を聞き、初発の感想を書く。 ・気持ちの変化に注目し、どの場面で気持ちが変わるのかを確認する。		◎①	○	初発の感想で考えたことをノートにまとめようとしている。 【主】〈ノート・観察〉

	化したかを考える。				登場人物について具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察〉
2	●初発の感想を交流する。 ・「つけたい力」を確認する。 ・初発の感想を伝え合う。		○①	○	初発の感想で考えたことを伝え合おうとしている。 【主】〈ノート・観察〉 登場人物について具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察〉
3	●教材文の大体を捉える。 ・場面ごとのあらすじを考え、題名をつける。 ・「○○するごん」と短い文で題名を考える	○	○①		ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目している。 【知・技】〈ノート・観察〉 ごんや兵十の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察〉
4	●一場面を読み、うなぎをとったごんやとられた兵十について考える。 ・ごんと兵十の距離について考える。 ・登場人物の行動や会話、様子、情景などを手がかりに、登場人物について自分の考えをまとめる。	○	○①		ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目している。 【知・技】〈ノート・観察〉 ごんや兵十の行動や気持ちについて、具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察・ロイロノート〉
5	●二場面を読み、葬列を見たごんや母親を亡くした兵十について考える。 ・ごんと兵十の距離について考える。	○	○①		ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目して

	・登場人物の行動や会話、様子、情景などを手がかりに、登場人物について自分の考えをまとめる。			いる。 【知・技】〈ノート・観察〉 ごんや兵十の気持ちや性格について、前の場面とつなげて具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察・ロイロノート〉
6	●三場面を読み、償いをするごんやいわしやくりなどが家に届く兵十について考える。 ・ごんと兵十の距離について考える。 ・登場人物の行動や会話、様子、情景などを手がかりに、登場人物について自分の考えをまとめる。	○	○①	ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目している。 【知・技】〈ノート・観察〉 ごんや兵十の気持ちや性格について、これまでの場面とつなげて具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察・ロイロノート〉
7	●四場面を読み、兵十と加助の後をついていくごんや不思議なことが起こっている兵十について考える。 ・ごんと兵十の距離について考える。 ・登場人物の行動や会話、様子、情景などを手がかりに、登場人物について自分の考えをまとめる。	○	○①	ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目している。 【知・技】〈ノート・観察〉 ごんや兵十の気持ちや性格について、これまでの場面とつなげて具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察・ロイロノート〉
8	●五場面を読み、兵十と加助の話を聞いたごんや加助と話をする兵十について考える。 ・ごんと兵十の距離について考える。 ・登場人物の行動や会話、様子、情景などを手がかりに、登場人物について自分の考えをまとめる。	○	◎①	ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目している。 【知・技】〈ノート・観

	る。				察》 ごんや兵十の気持ちや性格について、これまでの場面とつなげて具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察・ロイロノート〉
9	●六場面を読み、兵十の呼びかけにうなずくごんやごんの様子を見た兵十について考える。 ・ごんと兵十の距離について考える。 ・登場人物の行動や会話、様子、情景などを手がかりに、登場人物について自分の考えをまとめる。	○	◎①		ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目している。 【知・技】〈ノート・観察〉 ごんや兵十の気持ちや性格について、これまでの場面とつなげて具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察・ロイロノート〉
10 本時	●ごんや兵十が大きく変化した場面がどこかについて考える。 ・これまでの学習を振り返り、登場人物の変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に自分の考えをまとめる。		◎①		これまでの学習を振り返り、ごんや兵十の変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 【思・判・表①】〈ノート・観察・ロイロノート〉
11	●『ごんぎつね』のその後の話を考える。 ・これまでの学習をふまえ、本文の叙述にそって、兵十がごんのことを誰かに話したのか、また話をしたのなら、だれにどのような話をしたのかを考える。	◎	◎②		ごんや兵十の様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目している。 【知・技】〈ノート・観察〉 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持ち、その後の話を考えることができる 【思・判・表

					②】〈ノート・観察〉
12	●考えた『ごんぎつね』のその後の話を交流する。 ・交流をし、感想を伝え合う。 ・叙述にそって考えられているか、友だちの作品とも比べながら、自分の作品を振り返る。			◎	場面の移り変わりや出来事と結び付けて具体的に想像し、考えたことを伝え合おうとしている。 【主】〈ノート・観察〉

10. 本時の展開（10/12時間目）

（1）本時の目標

・これまでの学習を振り返り、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

（2）本時の評価規準

・これまでの学習を振り返り、ごんや兵十の変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。【思考・判断・表現①】

（3）展開

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5	1. 前時の振り返りを聞く。 2. 本時のめあてを確認する。 ・単元のつきたい力も確認する。	・振り返りを一覧にまとめ、学習したことを共有する。 （ロイロノート）	
	ごんや兵十の変化について、考えたことをまとめよう。		
5	3. これまでの学習を振り返り、「ごん」や「兵十」の変化について考え、まとめる。 ・一場面から六場面までのごんと兵十の心情や行動を整理し、その変化に注目する。	・あらすじや題名の確認も行い、これまでの学習を振り返る時間をとる。 ・文章の言葉に着目し、重要な語や文を選び、自分の考えを持てるように伝える。 ・ロイロノートの学習の記録も確認するように促す。	
10	4. 全体で交流する。	・自分の考えと友だちの意見を比べながら聞くように声をかける。	
10	5. 追発問について考える。		
	ごんや兵十が大きく変化した場面について考えよう。		

	・これまでの学習を振り返り、「ごん」や「兵十」が大きく変化した場面についてノートに考えを書く。 ・第1時に使用したロイロノートにも書き込む。	・第1時で考えたこととも比べながら、変化について考えるように声をかける。 ・場面だけでなく本文の表現に着目し、理由も考えさせる。	・これまでの学習を振り返り、ごんや兵十の変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。【思・判・表①】〈ノート・観察〉
10	6. ペア・グループ・全体で考えを交流する。 ・ロイロノートの画面も見ながら交流する。 ・ロイロノートを電子黒板に写しながら交流する。	・自分の考えと友だちの意見を比べながら聞くように声をかける。	
5	7. 学習の振り返りを書く。	・これまでの学習を振り返る時間をとる。 ・ロイロノートの学習の記録も確認するように促す。	

(4) 本時における具体的な児童の状況 (※本時の評価規準に関わる場面において)

おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C) への支援
・ごんの兵十に対する気持ちの変化 ・兵十のごんに対する気持ちの変化 ・二人の関係の変化 ・二人の距離の対比 など、具体的な変化の内容などについて、登場人物の会話や行動、様子を表す本文の叙述に着目し、場面の移り変わりと関連づけながら書くことができる。【思・判・表①】 ◎「ごんの気持ちが変化したのは二場面だと思います。なぜかという、いたずらばかりしていたごんが、『あんないたずらをしなけりゃよかった』と反省していたり、兵十のことを気にしたりしているからです。そして深く考えずにしたいいたずらで兵十のお母さんを死なせてしまって申し訳ないと思っているからです。」 ◎「兵十の気持ちが大きく変わったのは六場面だと思います。今までは、ごんのことを「ぬすつとぎつねめ」と思っていたり、くりをくれたのも「神さま」だと思っていたりして、今回もごんがまたいたずらをしに来たと思っていたと思います。でも、くりや松たけを持ってきてくれていたのがごんだと気が付いて、持	これまで学習してきたこと確認し、それぞれの場面の人物の様子を考え、比較するように伝える。 これまで使用してきた二人の距離のロイロノートも見返し、どこでどのように大きく変化をしたのか考えるように伝える。 また変化した理由について、本文の叙述から考え、書くように伝える。【思・判・表①】

っていた火縄じゅうをばたりと取り落とすくらい、取り返しのつかないことをしてしまったと後悔したんだと思います。」

◎「三場面だと思いました。ひとりぼっちになった兵十に、いたずらではなくうなぎのつぐないをしているからです。そしてこれまではいたずらをしても反省やつぐないはしていなかったと思います。でも次の日も、その次の日も毎日つぐないをするくらい兵十のお母さんを死なせてしまったことを反省していると思いました。」

◎「五場面だと思います。ごんが『兵十のかげぼうしをふみふみ行きました』ということはすぐ近くまで近づいていると思います。今まではつかまるとあぶないから六じぞうのかげにかくれていたたり、うらぐちからのぞいたりして、近づいていなかったけれど、距離がそれくらい近くなったと思います。それくらい兵十たちの話に興味を持って、話を聞きたいとごんは思ったんだと思います。」

(5) 板書計画

